

平成 13 年度 熊本大学 2 次試験前期日程 (数学問題)120 分
理系 (理, 医, 薬, 工学部) 平成 13 年 2 月 25 日

1 次の問いに答えよ。

- (1) $x < 0$ のとき, e^{-x} と $x^2 + 1$ の大小関係を調べよ。
- (2) 2 つの曲線 $y = xe^{-x}$, $y = x(x^2 + 1)$ と直線 $x = -1$ で囲まれる部分の面積を求めよ。

2 座標平面上の点 $P_n(n, 1)$, $n = 1, 2, \dots$ に対して, 点 P_1 から原点 O と点 P_n ($n \geq 2$) を通る直線へ下ろした垂線を P_1Q_n とし, 2 つのベクトル $\overrightarrow{OP_1}$, $\overrightarrow{Q_nP_1}$ のなす角を θ_n とする。このとき, 次の問いに答えよ。

- (1) ベクトル $\overrightarrow{Q_nP_1}$ の成分を求めよ。
- (2) $\cos \theta_n$ を求めよ。
- (3) $\tan \theta_n < 1.01$ をみたす最小の n の値を求めよ。

3 a を整数とする。 $x_n = n^3 - an^2$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) で定められている数列 $\{x_n\}$ が

$$x_1 > x_2 > \dots > x_{14} > x_{15}, \quad x_{15} < x_{16} < x_{17} < \dots$$

をみたすとき, a を求めよ。

4 袋の中に 1 から 5 までのいずれかの数字を書いた同じ形の札が 15 枚入っていて, それらは 1 の札が 1 枚, 2 の札が 2 枚, 3 の札が 3 枚, 4 の札が 4 枚, 5 の札が 5 枚からなる。袋の中からこれらの札のうち 3 枚を同時にとり出すとき, 札に書かれている数の和を S とする。このとき次の問いに答えよ。

- (1) S が 2 の倍数である確率を求めよ。
- (2) S が 3 の倍数である確率を求めよ。

解答例

□ 1 (1) $f(t) = e^t - \left(1 + t + \frac{t^2}{2} + \frac{t^3}{6}\right)$ とすると

$$f'(t) = e^t - \left(1 + t + \frac{t^2}{2}\right)$$

$$f''(t) = e^t - (1 + t)$$

$$f'''(t) = e^t - 1$$

$t > 0$ のとき $f'''(t) > 0$, $f''(0) = 0$ であるから $t > 0$ のとき $f''(t) > 0$
 これから

$t > 0$ のとき $f''(t) > 0$, $f'(0) = 0$ であるから $t > 0$ のとき $f'(t) > 0$
 さらに

$t > 0$ のとき $f'(t) > 0$, $f(0) = 0$ であるから $t > 0$ のとき $f(t) > 0$
 したがって, $t > 0$ のとき

$$e^t > 1 + t + \frac{t^2}{2} + \frac{t^3}{6} \quad \dots \textcircled{1}$$

このとき

$$\begin{aligned} 1 + t + \frac{t^2}{2} + \frac{t^3}{6} &= 1 + t^2 + \frac{t}{6}(t^2 - 3t + 6) \\ &= 1 + t^2 + \frac{t}{6} \left\{ \left(t - \frac{3}{2}\right)^2 + \frac{15}{4} \right\} \\ &> 1 + t^2 \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

①, ② から, $t > 0$ のとき

$$e^t > 1 + t^2$$

上式において $t = -x$ とすると

$$x < 0 \text{ のとき } e^{-x} > 1 + x^2$$

解説

$e^t = 1 + t + \frac{t^2}{2!} + \frac{t^3}{3!} + \dots$ であるから, $t > 0$ において,

$$e^t > 1 + t + \frac{t^2}{2}, \quad e^t > 1 + t + \frac{t^2}{2!} + \frac{t^3}{3!}$$

などを活用すればよい.

別解 $x^2 + 1 - e^{-x} = e^{-x}\{(x^2 + 1)e^x - 1\}$ … ①

$g(x) = (x^2 + 1)e^x - 1$ とおくと

$$g'(x) = 2xe^x + (x^2 + 1)e^x = (x + 1)^2 e^x$$

$g'(x) = 0$ とすると $x = -1$

$g(x)$ の増減表は、下のようになる。

x	…	-1	…	0
$g'(x)$	+	0	+	
$g(x)$	↗	$2e^{-1} - 1$	↗	0

したがって、 $x < 0$ のとき $g(x) < 0$

よって、①より $x < 0$ のとき $x^2 + 1 < e^{-x}$

(2) $x < 0$ のとき $e^{-x} > x^2 + 1$ ゆえに $xe^{-x} < x(x^2 + 1)$

$x = 0$ のとき $xe^{-x} = x(x^2 + 1)$

$x > 0$ のとき $e^{-x} < 1 < x^2 + 1$ ゆえに $xe^{-x} < x(x^2 + 1)$

ゆえに、2つの曲線 $y = xe^{-x}$, $y = x(x^2 + 1)$ の共有点の x 座標は $x = 0$

よって、求める面積 S は

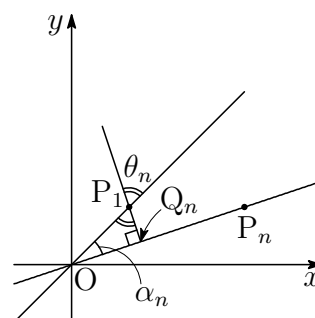
$$\begin{aligned} S &= \int_{-1}^0 \{x(x^2 + 1) - xe^{-x}\} dx \\ &= \left[\frac{1}{4}x^4 + \frac{1}{2}x^2 + (x + 1)e^{-x} \right]_{-1}^0 = \frac{1}{4} \end{aligned}$$

2 (1) $\overrightarrow{OP_1} = (1, 1)$, $\overrightarrow{OP_n} = (n, 1)$ であるから

$$\overrightarrow{OP_1} \cdot \overrightarrow{OP_n} = n + 1, \quad |\overrightarrow{OP_n}|^2 = n^2 + 1$$

したがって

$$\begin{aligned} \overrightarrow{Q_n P_1} &= \overrightarrow{OP_1} - \frac{(\overrightarrow{OP_1} \cdot \overrightarrow{OP_n})}{|\overrightarrow{OP_n}|^2} \overrightarrow{OP_n} \\ &= (1, 1) - \frac{n + 1}{n^2 + 1} (n, 1) \\ &= \left(\frac{1 - n}{n^2 + 1}, \frac{n^2 - n}{n^2 + 1} \right) \end{aligned}$$



(2) \vec{OP}_1, \vec{OP}_n のなす角を α_n とすると

$$\cos \alpha_n = \frac{\vec{OP}_1 \cdot \vec{OP}_n}{|\vec{OP}_1| |\vec{OP}_n|} = \frac{n+1}{\sqrt{2}\sqrt{n^2+1}}$$

また $\sin^2 \alpha_n = 1 - \cos^2 \alpha_n = 1 - \frac{(n+1)^2}{2(n^2+1)} = \frac{(n-1)^2}{2(n^2+1)}$

$\sin \alpha_n > 0$ であるから $\sin \alpha_n = \frac{n-1}{\sqrt{2(n^2+1)}}$

$\theta_n = 90^\circ - \alpha_n$ であるから

$$\cos \theta_n = \cos(90^\circ - \alpha_n) = \sin \alpha_n = \frac{n-1}{\sqrt{2(n^2+1)}}$$

(3) $\tan^2 \alpha_n = \frac{1}{\cos^2 \alpha_n} - 1 = \frac{2(n^2+1)}{(n+1)^2} - 1 = \frac{(n-1)^2}{(n+1)^2}$

$0 < \alpha_n < 90^\circ$ であるから $\tan \alpha_n > 0$ より $\tan \alpha_n = \frac{n-1}{n+1}$

$\theta_n = 90^\circ - \alpha_n$ であるから

$$\tan \theta_n = \tan(90^\circ - \alpha_n) = \frac{1}{\tan \alpha_n} = \frac{n+1}{n-1}$$

$\tan \theta_n < 1.01$ をみたす最小の n は

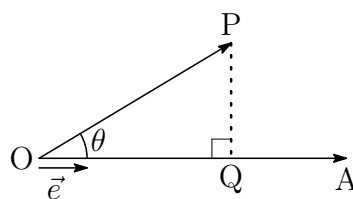
$$\frac{n+1}{n-1} < 1.01 \quad \text{ゆえに} \quad n > 201$$

したがって, これをみたす最小の n は 202

解説

\vec{OA} と \vec{OP} のなす角を θ とし、単位ベクトル \vec{e} を

$$\vec{e} = \frac{\vec{OA}}{|\vec{OA}|} \quad \dots \textcircled{1}$$



とすると、 P から OA に下ろした垂線の足 Q について

$$\vec{OQ} = (|\vec{OP}| \cos \theta) \vec{e} \quad \dots \textcircled{2}$$

また、 $\cos \theta = \frac{\vec{OP} \cdot \vec{OA}}{|\vec{OP}| |\vec{OA}|}$ であるから $|\vec{OP}| \cos \theta = \frac{\vec{OP} \cdot \vec{OA}}{|\vec{OA}|}$

これと $\textcircled{1}$ を $\textcircled{2}$ に代入すると $\vec{OQ} = \frac{(\vec{OP} \cdot \vec{OA})}{|\vec{OA}|^2} \vec{OA}$

よって $\vec{QP} = \vec{OP} - \vec{OQ} = \vec{OP} - \frac{(\vec{OP} \cdot \vec{OA})}{|\vec{OA}|^2} \vec{OA}$

$$\boxed{3} \quad f(t) = t^3 - at^2 \text{ とおくと, } x_n = f(n) \quad f'(t) = 3t^2 - 2at$$

[1] $a \leq 0$ のとき, $t > 0$ において, $f'(t) > 0$ であるから

$$f(1) < f(2) < \dots \quad \text{すなわち} \quad x_1 < x_2 < \dots$$

これは条件に反する.

[2] $a > 0$ のとき, $f(t)$ の増減は次のようなる.

t	0	...	$\frac{2}{3}a$...
$f'(t)$		-	0	+
$f(t)$		\searrow	極小	\nearrow

条件を満たすとき

$$14 < \frac{2}{3}a < 16, \quad f(14) > f(15), \quad f(15) < f(16)$$

第1式から $21 < a < 24 \quad \dots \textcircled{1}$

第2式から

$$\begin{aligned} 14^3 - a \cdot 14^2 &> 15^3 - a \cdot 15^2 \\ (15^2 - 14^2)a &> 15^3 - 14^3 \\ (15 + 14)a &> 15^2 + 15 \cdot 14 + 14^2 \\ a &> 21\frac{22}{29} \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

第3式から

$$\begin{aligned} 15^3 - a \cdot 15^2 &< 16^3 - a \cdot 16^2 \\ (16^2 - 15^2)a &< 16^3 - 15^3 \\ (16 + 15)a &< 16^2 + 16 \cdot 15 + 15^2 \\ a &< 23\frac{8}{31} \quad \dots \textcircled{3} \end{aligned}$$

①, ②, ③の共通範囲にある整数を求めて $a = 22, 23$

別解 $x_n = n^3 - an^2$ より

$$\begin{aligned} x_{n+1} - x_n &= \{(n+1)^3 - a(n+1)^2\} - (n^3 - an^2) \\ &= 3n^2 - (2a-3)n - (a-1) \end{aligned}$$

$f(n) = 3n^2 - (2a-3)n - (a-1)$ とすると、条件により

$$n = 1, 2, 3, \dots, 14 \text{ のとき } f(n) < 0$$

$$n = 15, 16, \dots \text{ のとき } f(n) > 0$$

$y = f(x)$ のグラフは、下に凸の放物線であるから、次式を満たせばよい。

$$f(1) < 0, f(14) < 0, f(15) > 0$$

ゆえに $7 - 3a < 0, 631 - 29a < 0, 721 - 31a > 0$

すなわち $\frac{7}{3} < a, 21\frac{22}{29} < a, a < 23\frac{8}{31}$

したがって $21\frac{22}{29} < a < 23\frac{8}{31}$

よって、求める整数 a の値は **22, 23**

- 4 (1) S が偶数になるのは、3枚が偶数または1枚が偶数で2枚が奇数の場合である。したがって、 S が2の倍数になる確率は

$$\frac{{}_6C_3 + {}_6C_1 \cdot {}_9C_2}{{}_{15}C_3} = \frac{20 + 6 \times 36}{455} = \frac{236}{455}$$

- (2) 3で割った余りが0となる数の札が3枚、1となる数の札が5枚、2となる数の札が7枚あり、 S が3の倍数となる余りの組み合わせは $(0, 0, 0)$, $(1, 1, 1)$, $(2, 2, 2)$, $(0, 1, 2)$ である。したがって、 S が3の倍数になる確率は

$$\frac{1 + {}_5C_3 + {}_7C_3 + {}_3C_1 \cdot {}_5C_1 \cdot {}_7C_1}{{}_{15}C_3} = \frac{1 + 10 + 35 + 105}{455} = \frac{151}{455}$$